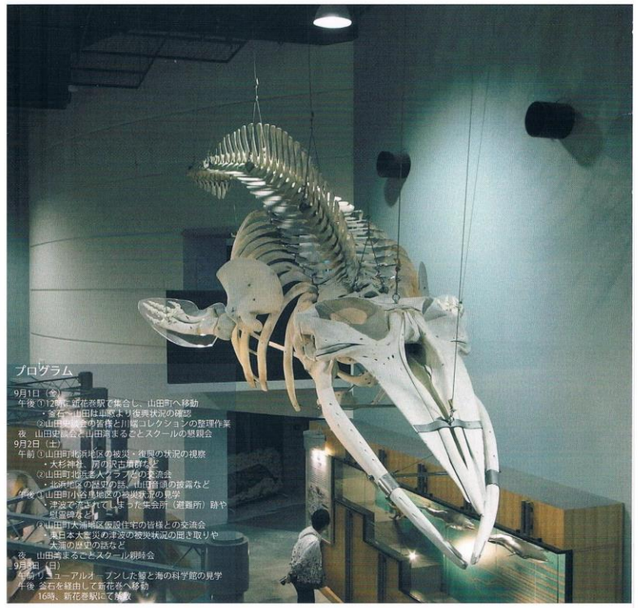
山田湾まるごとスクール
記録集

No. 5



プログラム

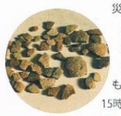
9月1日（金）
午後 ①12時に新花巻駅で集合し、山田町へ移動
・釜石で山田は津波により復興状況の確認
②山田湾まるごとスクールの皆様と川端コレクションの整理作業
夜 山田史談会と山田湾まるごとスクールの懇親会
9月2日（土）
午前 ①山田町沿岸地区の被災・復興の状況の視察
・大杉神社、房の沢古墳群など
②山田町北浜老人クラブ例会参加
・北浜地区の歴史の話、山田湾の被災など
午後 ①山田町小谷鳥地区の地域教育の見学
・津波で流されて「小谷鳥会所（避難所）跡や慰霊碑など
②山田町大浦地区仮設住宅の皆様との交流会
・東日本大震災の津波の被災状況の聞き取りや
・大浦の歴史の話など
夜 山田湾まるごとスクール初懇会
9月3日（日）
午後 ①リニューアルオープンした鯨と海の科学館の見学
・釜石を経由して新花巻へ移動
16時、新花巻駅にて解散

2018. 3. 4
山田湾まるごとスクール事務局

川端コレクションの整理
山田史談会との交流

縄文の「縄」に挑戦！

2017年9月1日12時に新花巻駅で集合し、第5回山田湾まるごとスクールがスタートしました。釜石から山田町に向かう道中では、道路の付け替え工事が行われたり、災害公営住宅が新たに建設されていたりなど、昨年とはまた違った風景が観察されました。特に防潮堤の建設が進み、海岸沿いを通っても海が見えないのが印象的でした。



15時に山田史談会の皆様が待つ山田町の整理作業室に到着。挨拶もそこそこに山田町教育委員会の皆様が予め準備して下さっていた川端コレクションの整理作業に取り掛かりました。

今回は山田史談会、山田町教育委員会、山田湾まるごとスクールの総勢約20名が参加。前回は縄文土器を口縁部・胴部・底部と土器の部位ごとに分類したので、今回は、土器の表面で観察できる「縄文」に着目し、縄文だけの土器・無文の土器・縄文以外の文様のある土器に分類しました。

まず初めに土器の見方や、縄文の施文の仕方などについて実験を交えて説明を受けた後、グループに分かれて作業をしました。約1時間半の作業で、コンテナ3箱分の分類が完了しました。

左縄文土器とテキストを見比べて、似ているものを探します。右撚り？左撚り？中テキストには縄文のパターンが数多く掲載され、どのように施文したのかもわかります。右麻紐を撚って作った縄文原体を粘土の上で転がして…さてどんな模様ができるでしょう？

川端コレクション

川端コレクションは山田史談会会長の川端弘行さんと山田町大浦地区の皆様によって、長年にわたり収集保存されてきた歴史遺産です。縄文・弥生時代の土器や古代以降の鞴の羽口、中世の古銭、そして近代の漁撈具に至るまで、大浦の歴史を調べる上で欠かせない貴重な資料です。大津波の被害を奇跡的にまぬがれ、山田湾の大切な遺産として2015年より整理作業を進めています。（詳細は第4回記録集をご覧ください。）

山田湾まるごとスクールでは、年1回、山田史談会の皆様とともにコレクションを整理しながら、一緒に山田湾の歴史について学んでいます。

川端弘行会長と川端コレクション

例　言

1．本書は2017年9月1日から9月3日に実施した第5回山田湾まるごとスクールの活動記録集です。
2．本書の編集は、馬場小室山遺跡に学ぶ市民フォーラム、新潟大学人文学部で構成される山田湾まるごとスクール事務局の五十嵐聡江が担当しました。
3．本書で使用した写真は、山田湾まるごとスクールの鎌田美（さわらび通信http://sawarabiy.web.fc2.com/160901/84.html）、古矢勝喜、五十嵐聡江が撮影したものです。
4．山田湾まるごとスクールの実施にあたり、多くの諸機関や個人の方からご協力ならびにご指導を賜りました。下記にお名前を明記し、感謝申し上げます。
（順不同・敬称略）
大浦地区の皆様・北浜老人クラブ・宮北会・山田史談会
山田町教育委員会・山田町立鯨と海の科学館
小野寺純也・川端弘行・川向髙子・東海林和彦・白土靖行
志和一美・野田光昭・湊敏

土偶を学ぶ

川端コレクションの中には土器片だけではなく、土偶の脚部も見つかっています。また、同じく大浦地区の畠中遺跡からは、縄文時代後期と晩期の土偶や人面が付いた土器が出土しています。そこで、土器片の整理作業が終了した後に土偶の勉強会を開催しました。

勉強会では、旧石器時代の岩偶から国宝の中空土偶まで、有名な土偶を例にその変遷をわかりやすく解説していただきました。

畠中遺跡は山田湾で初めて土偶が出土した遺跡だそうで、人面把手付土器も含めると発掘調査で3体が確認されており、川端コレクションの1体を加えると計4体が大浦に集中しています。

1～5土器の文様を一つ一つ確認しながらの分類作業。6写真付きでの解説はまるで土偶展を見ているよう！7 30分もすると目が土器に慣れてきて、どんどん作業がはかどります。集計するのも一苦労。8今回の成果はコンテナ3箱分!! 9皆さん、お疲れ様でした。

畠中遺跡

畠中遺跡は、船越半島大浦地区の大浦小学校周辺に位置し（6頁の地図を参照）、道路の建設工事に伴い2013年に発掘調査が行われました。調査では縄文時代後期の大型土坑（1基）土器捨て場（1か所）、縄文時代後期～晩期の土坑（60基）、古代（奈良～平安時代）の炭窯3基などが確認されています。遺物は、縄文土器や石器、土偶、動物の骨、石製品（翡翠製ペンダントなど）、鉄滓や羽口などが出土し、なかでも縄文時代の土偶が複数体出土しているのが特徴です。

1畠中遺跡より出土した人面把手付土器の把手部分。（第2回山田湾まるごとスクールで見学。2013）2畠中遺跡の発掘調査(2013)。3畠中遺跡の調査終了後にできた復興道路。道路の突き当たり奥は大浦小学校(2015)。

古代蝦夷と伝統芸能にふれる
北浜老人クラブの例会に参加して

北浜の歴史

2日目は山田町北浜・沢田地区の北浜老人クラブの月例会にお邪魔しました。会長の千代川定子さんや事務局長の東海林和彦さんをはじめ約40名の方々がお出迎えしてくださいました。お互いの団体の紹介をした後、山田湾まるごとスクールからは山田湾を代表する遺跡の１つである房の沢古墳群について紹介しました。房の沢古墳群の発掘調査に立ち会った方もおり、調査当時の様子なども伺うことができました。また、北浜老人クラブ役員の東海林富美子さんが制作した縄文土器を囲みながら、縄文土器についての考古学教室も行いました。

手作りの昼食をいただいた後、北浜老人クラブ踊り部の皆様による踊りをご披露いただきました。最後は一緒に山田音頭を踊り、山田旅情を合唱しました。

左房の沢古墳についてのお話。現地説明会に参加された方も。上北浜のお母さんの味！

北浜老人クラブ

北浜老人クラブは山田町北浜地区にお住まいだった約60名の会員で、月1回の例会では地区外に転居された方も含め約40名ほどの方が集まりレクリエーション活動を行っています。また、沿道に花壇を整備する美化活動や踊りによる福祉施設の慰問活動、そして震災の記録活動なども行っています。

山田湾まるごとスクールは、震災直後から北浜老人クラブを支援し続けているさいたま市の宮北会の皆様からご紹介を受け、2016年からお付き合いをさせていただいています。

上/左役員の東海林さんが作られた縄文土器を用いて考古学教室を開催。

房の沢古墳群

山田町沢田地区にある房の沢古墳群は丘陵の斜面を利用した古代蝦夷のお墓で、現在まで約30基の古墳が見つかっています。古墳の中からは蝦夷の刀とも呼ばれ、柄の部分が蕨の形をしている蕨手刀などが出土し、特に鉄刀類の多さは他の古墳群に類をみません。また豊などの馬具や馬の墓が4基見つかっており、房の沢古墳群の蝦夷たちが、馬と深くかかわっていた様子を窺い知ることができます。

房の沢古墳群の東側の谷地と丘陵からは、住居跡と鉄生産遺跡（沢田遺跡）が確認されていることから、ここは墓・住居・鉄生産遺跡(工房)といった古代蝦夷の活動がまるごとわかる場所です。狭い範囲に蝦夷の活動全てがとまっている房の沢から沢田一帯は、古代蝦夷の実態を解明する上で貴重な場所だといえるでしょう。

1房の沢古墳群より出土した鉄刀類。一番上が蕨手刀で、房の沢古墳群からは4振見つかっています。（発掘調査報告書より引用）2房の沢古墳群の斜面にできた避難階段。階段左上側から画面奥にかけてが房の沢古墳群。

マすが、師匠の踊りは優美♪

上踊り部の皆さんによる踊りの上演。下左山田旅情の合唱。下右最後はまるごとスクールも参加して山田音頭を踊りました。

山田音頭

一
ハ～黄金船かや　竜宮か
ハヨイトコリャ　ヨイヨイ
港山田の　沖気楼
サテ山田音頭　踊りゃんせ
サアサ踊りゃんせ

二
ハ～雪の鯨峰　霞の霞露
ハヨイトコリャ　ヨイヨイ
鐘の所は　御山の名所
サテ山田　山の音頭　踊りゃんせ
サアサ踊りゃんせ

三
ハ～夜鷹れば　百世の縁
ハヨイトコリャ　ヨイヨイ
聞いて下さるきいて下さる　不動様
サテ山田音頭で　踊りゃんせ
サアサ踊りゃんせ

四
ハ～大謀起こせば　船も鳥帆か
ハヨイトコリャ　ヨイヨイ
千両万両千両万両の　魚の市
サテ山田音頭で　踊りゃんせ
サアサ踊りゃんせ

五
ハ～とどのつまり　崎は荒潮はやい
ハヨイトコリャ　ヨイヨイ
男は逆らえど　伊達ならじめ
サテ山田音頭で　踊りゃんせ
サアサ踊りゃんせ

六
ハ～島のキャンプに　小船で行こうか
ハヨイトコリャ　ヨイヨイ
浦に招くよ　浦に招くよ　群れども
サテ山田音頭で　踊りゃんせ
サアサ踊りゃんせ

大杉神社の鳥居

北浜地区にある大杉神社里宮は津波によって5基あった鳥居のうち1基を残して流されてしまいました。震災以降長らく鳥居は１つのままでしたが、2017年9月2日に訪れた際に２つめの鳥居の修復が行われていました。2週間後の9月17日・18日の山田祭(大杉神社里宮復活祭)では、2つの鳥居が並び、神輿をむかえたそうです。

上修理中の大杉神社社殿。下手前が修復中の鳥居。奥は唯一残った復興を見守ってきた鳥居。

防災・減災を考える
大浦の仮設住宅での聞き取り調査から

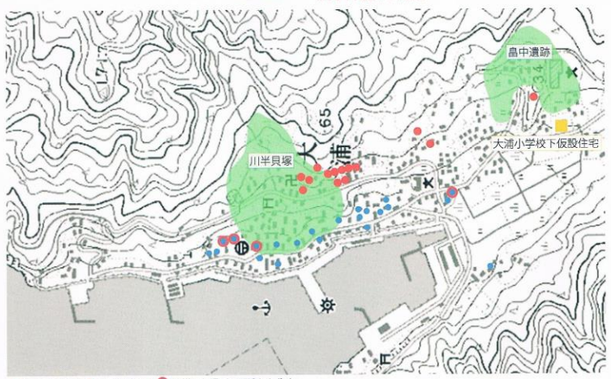
被災そして復興を学ぶ

2日目の午後は大浦小学校下仮設住宅を訪ね、昨年もお集まりいただいた10名の方と再会することができました。昨年は明治29年の大津波後の住宅移転状況の調査を行い、今回はそれに引き続き東日本大震災での被災および移転状況の聞き取り調査を実施しました。結果は下記の地図の通りです。明治29年の時と同様に海岸沿いの住宅が被災しており、その多くは高台の復興道路周辺へと移転したことがわかります。特に地図中央のまとまりは災害公営住宅が複数戸まとまって建設された場所です。また、明治29年のように浸水限界のすぐ外側に移転する例は確認できませんでした。

大浦小学校下仮設住宅は2018年3月に閉鎖になるそうで、今回が最後の仮設住宅の訪問となりました。

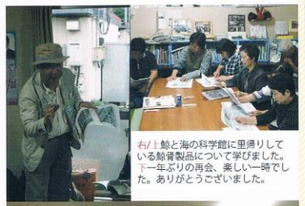
1～3４つのグループに分かれて、聞き取り調査開始。地図を見ながら、移転先を教えてもらいます。「買い物はどうしていますか？」など、自然と日々の暮らしのことに話が及びます。

柔らかくて絶品のイカ焼き♪



●被災した住宅。●移転先の住宅。●被災した場所に再建した住宅。
第5回山田湾まるごとスクールで聞き取った情報のみを表示しており、大浦地区の全戸について悉皆調査したものではないことをお断りします。

東日本大震災の津波による住宅の被災場所と再建場所



右/上鯨と海の科学館に里帰りしている鯨骨製品について学びました。下一年ぶりの再会、楽しい一時でした。ありがとうございました。

大浦小学校下仮設住宅

大浦小学校下仮設住宅には、大浦地区と小谷鳥地区で被災された46世帯の方々がお住まいでした。第2回まるごとスクール（2013年）で初めて訪問し、その暮らしぶりについてお話を伺いました。1DKという狭さに加えプライバシーがない生活は、大変な苦労を伴ったことと推察します。震災から5年を過ぎた頃から徐々に転居される方が増え、2017年夏の時点で半数以上が空き家になっていました。2018年3月には完全に閉鎖されるそうです。

左川半貝塚から眺めた大浦湾の夕景。穏やかな水面が広がります。

小谷鳥を訪ねて

大浦小学校下仮設住宅には、大浦地区の南の小谷鳥地区で被災された方も身を寄せていました。地震があった2011年3月11日には、津波高約18m、遡上高約25m、最大浸水深約17mの津波が小谷鳥地区を襲いました。横高約20mのコミュニティーセンター（指定避難所）も津波にのまれ、避難された方が犠牲になりました。海岸から約1kmの湾奥の住宅までも津波の被害を受け、地区内に27軒あった住宅は11軒（うち新築が4軒）になってしまったそうです。

小谷鳥地区の低地部では、元の自宅があった場所に再建することができなくなってしまったため、大浦・船越・山田・長崎・豊間根・飯岡など山田町内各所に移住を余儀なくされ、同地区内での高台移転はわずか4軒のみでした。小谷鳥湾のすぐそばまで急斜面の山が迫っているという地形上、地区内に高台移転場所を求めるのが大変だということもあったようですが、お子さんやお孫さんの生活を優先して、より便利な町へと移住したとのお話も伺いました。

小谷鳥神社とコミュニティーセンター跡の傍には、東日本大震災の犠牲者を弔う「祈りの慰霊碑」が建てられています。

上慰霊碑から小谷鳥湾をのぞむ。2016年の台風で壊れた堤防も修復されている。下右「祈りの慰霊碑」には津波で犠牲になった18名の方の名前が刻まれている。下左聞き取り調査には小谷鳥地区の方もご参加くださいました。

祝！リニューアルオープン
山田町立鯨と海の科学館

復興のシンボルを訪ねて

第5回まるごとスクール最後の訪問先は山田町立鯨と海の科学館です。2017年7月15日の再オープン後、初めての訪問になりました。湊敏館長より科学館の被災から再オープンに至るまでの様子についてレクチャーを受けた後、いよいよ展示室へ。科学館の整備は基本的に復旧前の状態に戻すことが前提で、新しい展示等に多くの予算を割くことができない中、手作りの展示が館内を賑わせ、わかりやすくかつ楽しんでもらうための工夫が随所にみられました。

また、開館を記念した企画展「クジラー縄文から現代ー」が開催されており、縄文時代の鯨骨製品や江戸時代の捕鯨の様子を描いた絵巻物、大浦のイルカ漁についてなどが展示されていました。里帰りした山田町田の浜貝塚出土の縄文時代の鯨骨製品も観ることができました。

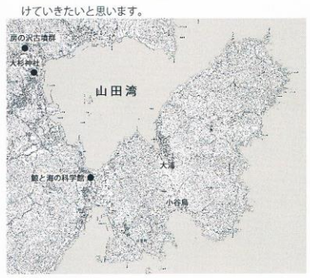
1湊館長より鯨館の復興の様子についてお話していただきました。2人間？それとも…3新たな撮影スポットです。4鯨館の外壁には、津波の高さが刻まれています。

山田湾とともに

震災から丸7年が過ぎようとし、山田湾まるごとスクールも第5回を終えました。山田湾では防潮堤が建設され、高台移転が進み、仮設住宅が閉鎖されるなど、生活環境が目まぐるしく変化していると感じました。生活を再建するためにインフラの復興が第一なのは言うまでもないことですが、一方で「仮設では毎日のように顔を合わせていたのに、仮設を出たらあまり会うこともなくなった」という声も聞こえ、心配されてきた復興後の孤立化という次の課題も現実的になってきました。

今回は、山田史談会・北浜老人クラブ・大浦小学校下仮設住宅の皆様と山田湾の「考古学」や「歴史」の話を共有することができました。これらの話題が少しでも日常に彩りをもたらし、明日の山田湾を考えるきっかけになれたとしたら幸いです。

山田湾まるごとスクールはこれからも山田湾の皆様と交流を続けながら、共に山田湾の宝を発見する努力を続けていきたいと思います。



第5回山田湾まるごとスクール記録集
発行日：2018年3月4日
編　集：山田湾まるごとスクール事務局
（馬場小室山遺跡に学ぶ市民フォーラム、新潟大学人文学部）
発　行：山田湾まるごとスクール事務局
〒300-2417　茨城県つくばみらい市富士見ヶ丘2-13-5　sanriku.yamadawan@gmail.com